



## MMWIN<sup>®</sup> みんなのみやぎネット<sup>®</sup>

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために  
Vol. 80

### 安全・迅速・正確・適切な情報共有

新型コロナウイルスに感染した軽症患者などの療養先である、軽症者宿泊療養施設（ホテル）へ、週3回往診されている、東北大学病院 総合地域医療教育支援部（総合診療科・漢方内科）特命教授 高山 真 先生に、MMWINの活用状況についてお話を伺いました。

MMWINの活用について、軽症者宿泊療養施設の診療で最も役に立っているのは、他医療機関で行われた胸部レントゲンやCT等の画像検査、採血結果を患者さんの同意のもとで確認できることです。患者さんを療養施設で経過観察するに際し、ホテル側で医療情報が得られないと、患者さんがどの程度悪いのかということが把握できないまま経過をみることになります。

肺炎の有無や炎症反応の程度について、患者さんと病院側の同意を得た上でいち早く確認できることは安心であり、患者さんの状態を客観的に把握できるMMWINの情報はとても大事であると思います。

もう一つは、「比べる」ということです。PCR陽性のみで療養施設に入り、あとから発症する患者さんもいますが、採血、画像、心電図等、前のデータと比較しないと判定が難しいこともあり、MMWINで確認することがあります。新型コロナウイルス感染症の患者さんは血栓ができやすいといわれていますが実際の採血では結果が微妙なケースもあり、Dダイマーの数値が元々微妙に上昇していたかなど、これまでの経過と比較するためにも、他医療機関との情報共有は大事です。

また、服薬内容がわかるということも非常に助かります。複数の投薬を受けている方もいますが、みなさんがお薬手帳を持参しているわけでもなく、何を内服しているのか十分に把握できないことも多々あります。このような場合に、かかりつけ医の処方内容を確認しています。患者情報があって新たな処方ができることで、有害事象、副作用を減らすことにもつながっています。



軽症者宿泊療養施設の様子

患者さんのMMWIN加入同意については、患者さんご自身不安な気持ちで入所されており、症状がある方も多く、しっかり診てもらえるという思いからか、多くの患者さんから同意を得られています。MMWINの参加施設でない場合等は、Faxや電話での問い合わせを行っており、Fax誤送信の懸念や電話問い合わせにすぐに対応できない等の課題がありますが、MMWINはそういったことをすべてクリアしており、しっかり個人情報も守られ、リアルタイムで安全に利用できるものであると思います。

宮城県内の医療機関にご協力をいただいて、患者さんが県内どこから来ても情報を共有できるということは、患者さん、医師双方にとってメリットが多く、適正な医療につながると思います。震災やコロナ等に代表される自然災害においては、情報共有ができないことで患者さんの状況把握ができず、救える命が救えないという状況になりえます。その命をしっかり救えることに繋がるので、みんなで個人情報管理のもと、情報をシェアして効率よく適正な医療ができるという方に向かっていくといいと思います。MMWINは、そのひとつのツールであると思います。



高山 真 先生

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】[office@mmwin.or.jp](mailto:office@mmwin.or.jp)

『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。